

平成 27 年度 長野県社会教育委員会議 議事概要

日時：平成 27 年 10 月 28 日（水）

午前 10 時 30 分～午後 16 時 00 分

場所：長野県総合教育センター 視聴覚室

○出席委員 浅 輪 佳代子 委員 中 島 正 韶 委員 中 條 智 子 委員
中 田 安 子 委員 中 村 礼 子 委員 西 一 夫 委員
西 村 駿 介 委員 原 礼 子 委員 伴 美佐子 委員

○県の出席者

教育委員会	菅 沼 尚	教育次長
生涯学習推進センター	荒 深 重 徳	所長
	中 澤 美 三	主任指導主事
文化財・生涯学習課	斎 藤 政一郎	企画幹兼課長補佐兼総務係長
	山 越 美 久	課長補佐兼生涯学習係長
	山 口 奈 央	主事
	大 内 敏 樹	指導主事

1 開会

2 教育次長挨拶

3 自己紹介

4 議長選出

5 議 事

(1) 平成 27 年度 生涯学習振興施策体系について

【西議長】

では、一言だけご挨拶したいと思います。時間が限られておりますので、ぜひ、それぞれのお立場から積極的にご発言いただき、この限られた時間の中で有意義な会にしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。12 時までという予定ですので、その

あたりも、皆様のご協力をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。お手元の会議の次第をご覧いただきたいと思います。この議事に従って進めてまいります。

まず、一号議案でございますが、平成 27 年度生涯学習振興施策体系について、事務局からの説明をお願いしたいと思います。

【山越課長補佐兼生涯学習係長】 資料により説明

【西議長】

ただ今ご説明のございました、平成 27 年度生涯学習振興施策体系につきまして、まずご質問があれば受けたいと思います。そのあとにご意見・ご要望を承るという形で進めてまいります。

ただ今の説明につきまして、ご質問、あるいは、確認事項等あれば、承ろうと思いますが、いかがでしょうか。

基本的な部分でも構いませんので、ご質問いただければと思います。いかがでしょうか。少し駆け足だったんですけれども、特によろしいでしょうか。

では、ただ今の平成 27 年度の生涯学習振興施策体系につきまして、ご意見・ご要望を承ろうと思いますが、いかがでしょうか。このようなこの部分について具体的に、こういった活動をぜひ盛り込んでほしいとか、こういった部分はどうかと、質問を取り混ぜてもよろしいかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【中田委員】

中田と申します。

「実現したい教育目標」というところに通学合宿というものがあまして、公民館にも、依頼というか、チラシも参っておりますが、この通学合宿を現在始めているところがあるかと思うんですが、その中身の様子をお聞きできればと思いますが。

【山越課長補佐兼生涯学習係長】

はい。様子ということでございます。

状況としますと、それぞれ市町村においての取組ということで、お話を伺っているところでございます。実はこの 10 月の末から 11 月の末にかけて、通学合宿を指導いただくようなリーダーの方の養成の研修といったようなものも、座学の基礎編を、それから実際に NPO 団体の方にご協力いただきまして、その施設を活用しながら、こういうふうに通学合宿展開するんだよというようなことを、1泊2日の日程で応用編の研修を行うというような取組をしております。その取り組みにつきましては、今年度で2年度目にあたってい

るということでございます。予算的に認められればということではございますが、来年度もそういった養成の研修といったものができればと考えているところでございます。実際の対応ということの中で申し上げますと、26年度の状況につきましては、25市町村で、述べ43回程度の通学合宿を実施していただいているというところでございます。宿泊場所が、いま中田委員さんがおっしゃったような公民館というようなケースもありますれば、あとは、地域の老人福祉センターであったり、野外活動センターであったり、山村留学センターであったりと、それぞれ宿泊を伴える地域の施設、資源を活用しながら、ご対応いただいているというところかと思えます。参加状況としては、小学校の高学年から中学生を対象とするような取組のようでありますけれども、大変申し訳ございませんが、今、私たちの方で細かい様子までを聞いてという整理がございませんので、またそのあたりにつきましても、個別に整理をしまして、説明を追ってできればというような形にしたいと思えますが、今日の段階でその程度でございますが、いかがでしょうか。

【中田委員】

はい。わかりました。ありがとうございます。

【西議長】

よろしいでしょうか。中條委員、お願いします。

【中條委員】

その関連なのですが、私たちは、通学合宿に婦人会として、各地域の中でいろいろな形に関わっております。この前、伊那市のほうに行きましたら、伊那市の高遠の公民館長さんが、あの事業ってすごくいい事業だよって。親御さんのほうも子どもさんのほうも、離れて暮らすということが、ものすごく子どもにとっても親御さんにとってもいい関係になっているということで、ぜひ進めていきたいということをおっしゃっていました。違う用件で行ったのですが、たまたまお話しすることがあって、そういうふうに言われて、ああよかったなというふうに思っておりました。

それで、今、山越さんが言われましたように、地域でいろいろ違いますので、1つだけ、山形県の例を申し上げます。公民館を主体として宿泊する場合は、お風呂というようなことがなかなか実現しにくいのです。老人福祉センターだとか、近くの温泉を利用するだとかで、お風呂を利用できる場所もあるのですが、公民館の宿泊ではできないのです。山形県のほうではですね、もらい湯ということをやっております、地域のお年寄りのご夫婦が、お風呂に入れるぐらいだったらうちでということで、お風呂だけ、子どもさんたちを受け入れているのです。そうすると、お年寄りのご夫婦もそれを楽しみにしていて、若い子どもたち、自分のお孫さんくらいの子どもさんみたいな子がきて、単なるお風呂だけじゃなくて、ちょっと夜食一緒に食べてくか、なんて言って話をする。それをすっ

ごくお年寄りも楽しみに待っているし、お年寄りにあまり接していない子どもたちもそれをとても楽しみにしているということで、すごくいい関わりができていているということだけお知らせしておきたいと思います。

今、25市町村と言われましたけど、それぞれ違う1泊だとか、2泊3日だとか、5日だとかいうところもあると思いますので、それは教育委員会のほうで、ちょっと事例をあげていただいてまとめていただければ、ひとつの参考の資料になるかと思います。以上です。

【西議長】

中島委員。

【中島委員】

通学合宿につきましては、県の社会教育委員連絡協議会の研究大会でも、発表されております。いろいろな形の合宿が県下で行われています。それを県とすれば、いい形でフィードバックしていくことが必要かと思います。

ひとつの例として、豊丘村でございますけれども、慈恵園という児童福祉施設があります。そこで合宿をします。10～11人ずつ、6月から9月まで7回に分けて、ずっとやるのですね。しかも火曜日から金曜日まで3泊4日、村内2つの小学校4年生70人余が体験します。このような取組の事例は社教連にはたくさんあるわけですが、私たち自身もまとめているわけですので、『通学合宿実践事例集』というようなかたちでまとまると参考になるのではないかと思います。

【西議長】

はい。ありがとうございます。

どのような実態になっているのか。少し情報発信していただけると、今やっているところでも更に工夫をして通学合宿の実現をしていただけるのかな、と。新たにまだこれからというところでも活用できるような形で、センターを中心として、情報を発信していただければありがたいと思います。

あといかがでしょうか。

浅輪委員お願いいたします。

【浅輪委員】

すみません。私は、一母としての感想なんですけれども、今年の夏休みに息子がやはり公民館でお泊り体験をしました。それが、これだったのかと今頃気づいたんです。というのは、「公民館で泊まろう」というお便りと、地区の代表の方が、募集をかけてくるので、どういう趣旨で行っているかということまでは、知らされてないのですね。なので、もっと県がこうしてるということを宣伝してもいいのかなと、今、思ったのです。そうするこ

とによって、保護者も何らかの形で興味が出てくるのじゃないかなと、ふと思いました。感想で申し訳ないのですが。

【西議長】

ぜひ県としてオーサライズしていただけると、ありがたいですね。他によろしいでしょうか。

はい。西村委員お願いします。

【西村委員】

放課後子ども教室だとかいろいろ話題に上がってるんですが、ちょっと違う観点から、2つ3つみなさんに考えていただきたいと思ひまして。

先ほど、私、紹介のなかで、少年クラブの講師をしていると言ひましたが、こんな実例があつたんですよ。今度のクラブ活動では新聞紙を持ってくるように伝えました。クラブ活動があつたんですが、なんと、40人近くの子どものうち3分の1以上の子どもが新聞を持ってこない。みなさんどうお考えになるか。それで、担任の先生にどうしてなんだろうと聞きました。そしたらね、家庭で新聞をとってない。聞いたらね、本当に今の若い世代のみなさんはね、新聞をとってない。情報が携帯やテレビやいろいろあるけど、びっくりしてね。それからもう一つ不思議なのが、子どもに何々持ってこいと言うと、無ければ親が近所駆け回ったり、そんなことしたりするんですが、そんなことしない。無いものは無い。私は予備を持って行って間にあつたんですが、なんと3分の1以上が新聞をとってない、そんな状況でね、だいぶ変わったなど。他の例で言えば、固定電話が少なくなつてね、連絡網がうまくいかない。ここに書いてあつたけれど、地域社会の崩壊というかね、民生委員ではないですがいろいろ私活動しているんですが、今、組合というかね、自治会組織に加入したくないという人がいっぱい出てきちゃつた。子育てのときは、学校や地域の会合とかあるんですが、済んだら必要ないと。その対策を、社会教育の大きな意味での社会教育ですが、そういうものを根底にして考えていかないと、これからの社会は成り立っていかないと、そんなことをちょっと思ひています。

【西議長】

よろしいでしょうか。特になければ、社会教育というものは地域とか学校であるとか、そういった多様な組織で社会教育全体をつくっていることになるかと思ひますので、関係の組織とともに、連携を密にとつていただきたいと思ひております。いま出された意見、特に通学合宿のところでいま話題が具体的に出てまいりましたけれども、その他の施策についても同様に進めていっていただければと思ひます。

【西議長】

はい。原委員。

【原委員】

私、高遠青少年自然の家の方も運営委員やっておりますので、そちらのほうで通学合宿が行われておりますのを最近知りまして、いいことが始まったなと思っておりました。今、皆さんの話聞いておりましたら、全県下の中でそういうことがどんどん勧められているということがわかりまして、そういうことの意味がちゃんと皆様に伝わって、分かち合う活動なんだということが根づけばいいな、というように思っています。私たちは、キャンプのプロを育成しております。技術もありますので、何かお手伝いすることがございましたら、各地域でも連携してつながろうと努力しておりますので、お声掛けいただいております。また、戸隠のガールスカウトセンターの方でも日本の憧れ、世界の憧れのキャンプセンターを持っております。全国、世界に利用していただくようにしておりますので、そんなものを活用いただきまして、私たちだけでなく、長野県下の人的資源を有効に活用しまして、つながっていただきたいなと思っております。これは絶対子どもたちにとって、最高の体験になると思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【中島委員】

社会教育が、通学合宿が教育的に有効だからと走ってしまうのを警戒したいと思います。というのは、通学合宿の中で一番問題なのが、学校の先生が忙しくならんようにすることです。だけど、連携することです。だから、通学合宿に来る保護者の委員会に社会教育委員が入っているわけです。公民館の主事さんとか、分館の役員さん、社会教育委員も入って企画を立ててやっていくわけですね。豊丘村の事例では、児童福祉施設での通学合宿という大きな意義があるわけですので、社会教育として、子どものためにいいことをやるんだけれども、あくまでも、さっきセンターの所長さんが言われたように、学社連携・学社融合を実践するわけですが、つまりは、大人がどういうように地域に関わって地域のなかで子どもも大人も育てていくかということを経験にしないと、社会教育の一番の基本がずれていくのではないかと、そういうふうな思いを持っております。

【西議長】

たぶんこのあとの議案にも関わってくることはないかと、今の中島議員の発言、承っておこうと思います。

(2) 県生涯学習施設の活用状況について

【西議長】

では、時間が少し、おしてきておりますので、第2号議案のほうに、進めてまいりたいと思います。第2号議案、県生涯学習施設の活用状況について、これについて、次にご審議いただきたいと思います。まず始めに、県生涯学習施設の、長野県生涯学習推進センターについて、扱いたいと思います。

長野県生涯学習センターの在り方の検討過程について、意見交換をお願いする理由も含めて事務局からご説明をお願いしたいと思います。

【山越課長補佐兼生涯学習係長】 資料により説明

【西議長】

はい。ありがとうございます。

次に現在の長野県生涯学習推進センターの事業について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【荒深長野県生涯学習推進センター所長】 資料により説明

【西議長】

ありがとうございます。ではただいまの説明に対しまして、はじめに、委員の皆様からご質問をうけ、そのあとで、ご意見を頂戴するという形で進めてまいりたいと思います。いま、それぞれ全体の概要、県政との関わり、あるいは、センターそのものの状況についての説明をいただきました。このことについて、ご質問があれば、まず承ろうと思いますが、いかがでございましょうか。

特にございませんでしょうか。

よろしいでしょうかね。特にご質問がないということでございますので、意見交換のほうに入ってまいりたいと思います。さきほど、事務局から、長野県生涯学習推進センターのあり方検討経過の説明がございました。今後の方向に対する説明等も含まれております。事務局の提案に対してご意見を頂戴していく、ということになろうかと思えます。たいへん大きな話題でございますので、個別の講座の問題というよりは、少しセンターの事業、大きく見ていただいた上で、ご意見、あるいは地域の公民館であるとか、それぞれの組織での少し大きなお立場からご意見をいただければありがたいなと思えますので、そこをあらかじめご了解いただきたいと思えます。時間はだいたいこれから30分くらいを予定して、ご意見いただければと思えます。あと、ご発言もできるだけ簡潔にまとめていただきたいと思えます。ではよろしくお願ひします。いかがでしょうか。

へビーユーザーと言われていた、伴委員、いかがでしょうか。

【伴委員】

僭越ではございますが、西先生からもご紹介ありましたように、私はこの講座のヘビーユーザーでございます。昨年度 1,780 人の受講生のうちの5か7くらいは私ではないかなと思っております。県民協働の事業改善ということで、各点検シートの中に費用対効果が不明確という文言があったかと思えます。私は個人的にですが、社会教育に費用対効果を求めるのはいかがなものかと思えます。今、学んだことが、すぐ翌日生きるといったような学びが社会教育の中にあるのだろうか、ということを考えています。私は、本当にこの生涯学習推進センターで育てていただいている人間です。まだ、卒業させてもらえませんが、はい、学ぶ途中の人間です。ぜひ費用対効果ということじゃなくて、人育ては地域づくりだと願っているのです。確かに発信の仕方は下手だと思います。広く県民の方にこんな素敵ないい場所があって、こんな素敵なドウダンツツジの紅葉で出迎えてくれるこういう場所があるということを知りたいと思っています。学びの核になっているという自覚というか誇りを持って、今後も続けていただけたらと思うし、私も学ぶ一人として、また更にお仲間として、学ばせていただければなと願っております。以上です。

【西議長】

突然指名して大変申し訳ございませんでした。ありがとうございます。他の委員からいかかがでしょうか。

はい。西村委員をお願いします。

【西村委員】

2点ほど、この組織の中で、どこに入るかちょっと見ていたのですが、見あたらないので。各地で行っているシニア大学、これはこの生涯学習センターの組織の中には入っていないのでしょうかね。

【斎藤企画幹兼課長補佐兼総務係長】

いません。

【西村委員】

いない。これは各地で、それこそ大変人気で、受講者数も多くて、魅力ある講座というか。1年を通じて、講座をどこの組織でやっているのか。

【伴委員】

公益財団法人 長野県長寿社会開発センターですよ。

【西村委員】

もうひとつ。たくさんの講座があると聞いて、たいへん頼もしく思うのですが、私は違う立場で、日頃思っているんですが、黙っていても意識ある人は、いろいろ講座の開設とか、公民館活動とか、そんな講座があると、情報を的確に得て、それぞれ一つも二つも受講しているのはいいんです。しかし、成人なんです、こんな人生おかしいだろうと思うのですが。たとえば朝起きて会社勤めて毎日帰ってくる。テレビ見て寝る。そんな生活の人が結構いるんですよ。そういう人たちの掘り起こしというかが必要かなと思って常日頃考えているところです。だから私たちも保存会に入れや、いろいろサークルに入れやと、大人、子どもにも言っているんですけど、なにしろクールでね、なんにもしない。会社が終わればパチンコやら飲み屋ね。そこら辺はいいんですが、家にまっすぐ帰って、また行く。なんの生きがいがあるんだって。そんな人たちを見て、たまに2、3人勧誘して、今、活き活きして生活している。嬉しがっている人もいます。意識ある人はなんか講座があるからと、新聞やいろいろ広報とか見て積極的に参加してくれるんですが、10人のうち半分以上の人は大人しくて、私から見ると生きがいがないような気がする。そんな生活している人たちがだいぶいるんですが、みなさんはどう考えているんでしょうか。そんなことでちょっと提案です。

【西議長】

では、最初の質問に対して。

【斎藤企画幹課長補佐兼総務係長】

シニア大学は、各地方事務所、合庁になっていますけど、基本的には福祉の方のサイドで、長寿社会開発センターですとか、シルバー人材センターとか含めてですけど、基本的に福祉系の中でセッティングされて、各10地域、県内でいうと、合庁ごとに毎年やってます。いろんなメンバーの方、講師の方、地域で呼んで来てやっていただいているんですけど、生涯学習で、県が行う指導者育成の観点からしますと、そのシニア大学の講師に行く方を育成すべきことがやはり一番大事なところかな、というのが立場だと思っております。事業点検で県の生涯学習推進センターは県民直接なのか、あるいは指導者のところをてこ入れするのかといったところのポイントがもう少し説明できればなというのがありました。そういう意味ではやはり、ちょっとそこはきれいにイメージができないと、意見が割れるということもあります。シニア大学の方は、生涯学習推進センターの方としても、県の方向としては、指導者として活動していただく実践指導者を作りまして、その方々に行っていただいて講演してもらおう。10地域ありますので、その形が理想かなと考えております。

【西議長】

今、二つ目のご意見としてでてきたことはまた、皆さんからご意見いただく中で、さまざまな事例が出てくるかと思しますので、その中で意見交換できればと思います。あと、事務局から説明があったのは、先ほどの大きい紙のこれからの事業の在り方の1つめのところで生涯学習、公民館活動の支援に位置付けられていて、それぞれの地域の活動を支えていく、その基盤になるのが、このセンターの事業というような位置付けで考えていくべきではないかというような理解を、この表とさきほどの説明から私は受けておりました。

その他にいかがでしょうか。中條委員お願いいたします。

【中條委員】

先ほど、伴委員さんが言われたとおり、県民のみなさんにこのセンターがあるということ、県民皆さんに開放というか、そういうことが、よくわかってないなと感じます。というのは、実は、隣にあります林業センターへ今年になってお邪魔しまして、間違えてこちらへ来ました。この施設が何であって、何をするのかということを知りませんでした。その時に車の中で、ここを開放してくれるのかねと、開放してくれれば使いようがあるよねということが話の中で出てきました。それとこの大きなA3資料のところの「遠方で参加しやすいように移動講座を要望」ということに関して、以前なのですが、子育て支援という資格をとるときに、長野市の県立図書館で半分、こちらの方で半分という、5、6回の半々にやっていただいたことがあって、すごく参加しやすいなというふうに思いました。こちらの講座のときには、塩尻駅から、シャトルバスを出していただいているんですが、そうでないときは、個人、車社会と言えば車社会なんですけれども、より多くの方に参加していただくには、この移動講座みたいな形を考えていったらいいのかなというふうに思いました。

【西議長】

ここの施設の開放の問題と、地方での開催、開設のあり方ということで、今ご意見いただきました。やはり、駅からいぶん距離があるということは、やはりそういう面もあるかと思えますけれども。いかがでしょうか。他の委員からもご意見頂戴したいと思います。中島委員お願いします。

【中島委員】

今の話と重ならないと思うのですが、社会教育と学校教育という話、所長さんもされていましたが、生徒たち、子どもから見れば、学校教育も社会教育もどっちだって同じなんですよね。私たちが社会教育、学校教育って言っていたって、子どもたちにとってみれば、そんな枠はないわけですね。さきほど、西村委員さんが、言われたように地域でのシニア大学とか、老人大学とか、高齢者学級とか、私も講師で呼ばれて話をしたりするのですが、社会教育なんですよね。そういうのも、部署が違うのを取っ払いながら、横に連

携しながら、こういうような形も社会教育の枠の中にあるんだって形で。とかく、社会教育は衰退しているだとか、どうのこうのと言うんですけど、幅広い形で長野県社会教育は着実に広がっているという考えを私は持っています。教委主管以外の部署が行っている社会教育施策の全体を見て、長野県社会教育はこうなんだというふうに打ち出していくということが大事なのではないかと思っております。

【西議長】

いかがでしょうか。原委員、いかがでしょうか。

【原委員】

すみません。私もここにこんないい施設があるのを研修のときに知って、なるべく選んで何回か参加させていただきましたが、一般にこういうふうに誰でも参加できる研修センターということが、恥ずかしいんですけども、改めてわかりました。ですから職場とかある方々は、こういうチラシとかがまいますと、熱心に自分に関連するものが何かないかなと思って、関心を持って見て、手を挙げて、来させていただくという機会があるんですけど、公民館の会報の中にこういうのが混ざって来たときに見落としてしまいがちで、これは私たちのものなんだっていう意識で受け取って、まずは広げて見るという、そこまでの努力ができればいいかなと思います。今、なんでも伝える力というのが、本当に求められているなとつくづく思いました。みんなのものになればいいかなと思っております。

【西議長】

ありがとうございます。

先ほどから何人かの委員からありましたけれども、情報発信なんではないかな。指導者養成というような形で、組織として位置づけていますけれども、その指導者をどうやって発掘していくかとか、そういったところで情報発信するのと、それをどう集約して地域の中に今度は返していくのか、こういう人材がいますよ、こういう人材をぜひ活用してくださいというような形で、地域活動、社会教育の中で、発信していくのが、センターとして持っている資産を見せていくというような形になるのではないかと思いますけれども。そこが地域の活動と、このセンターが、どのような位置づけになっているのか。どうしてもそれが、開放すればするほど、あまり変わってないんじゃないですか、と言われがちなんですけど。センターは、長野県の全体の社会教育活動を串刺しにする、あるいは、下支えになっている組織となっているのだというところを、しっかりご理解いただくことが大切になってくるのではないかなと思うのですけれども。いかがでしょうか。

浅輪委員、お子さんをお持ちだと思っておりますけれども。そういったお立場から、少しご発言いただくとありがたいですけれども。

【浅輪委員】

私、仕事で諏訪方面に行く時に、下道を通ると、ここの前を通ります。常日頃ここはなんの施設だろうと、ずっと思っていました。この役を引き受けて、こちらに足を運ぶ機会があったときに、とても立派できれいな施設なので驚きました。ここがどう利用されているかというのは、それまで知りませんでした。役を引き受けたおかげでいろいろな活動に携わることができ、またそれがどこかにつながっていくので、不思議な縁を感じました。先日、聞いた講演の中で、社会教育や、キャリア教育の話聞いたときに、とにかく、親が家にいる時間が少ないという現状がそうです。やはり働いているからには、そして生きていくためには働き、また子育てをしていく上でも働かなければなりません。ですが、まず大人が、また社会が、子育て・家庭に少し目を向け、あえて意識していくことで、変わることができると思います。今日、みなさんはどうなのかなとお聞きしたいところもありました。やはり原点は家庭だと思います。大人が少しでも心に余裕を持てると、そこで多少ゆとりが生まれたり、何かに興味を持ち始めるたりすることができ、こういう講座があると耳に入ったときに、受けてみようと思う気持ちになるのではないかと考えました。ただ、こういう講座があることすら知らないのが現状です。そしてそれが、私たちの一PTAの会員として参加していいものかどうなのかも分からないところです。私が県の教育委員会のほうで携わっている他の委員会では、ここを使ったフォーラムがありましたけれども、そのときに初めて、役員でない、一般の会員の方も参加していいんだというのを知りました。皆様のおっしゃっている情報発信がうまくいけば、親としてより豊かな教育が受けられるのではないかなと、思っております。

【西議長】

信州型コミュニティースクールで、学校支援ボランティアの育成をやっているんですね。それが実は、ここでやって、その指導者なんですよ、ということその人たちにも自覚的に発信してもらわないと、なんてことがとても大切なんじゃないでしょうかね。やっています、やっていますというだけじゃなくて、その人たちが実は、ここの講座で研修を受けて来てますよということをしっかり出していただくこともたぶんとても大事なんじゃないでしょうかね。

いかがでしょうかね。公民館関係で。はい。中田委員お願いします。

【中田委員】

今、言われているようなですね、やはり皆さん知らないということで、私もこういう役をしなければ知らなかった場所でありました。私も今年度3回くらい講座にお邪魔していて、来月も11月11日の防災地域づくり、申しこんだところなんです。今、学校関係にもいろいろサポートに入っているんですが、例えばですね、学校からですね、障がいをお

持ちのお子さんたち、預かっているんです。そういう子どもたちの、放課後ちょっと話し相手になってくださいとか、そういう要望が結構くるんですが、なかなか地域の人が、私は何も資格がないのに、そういうこととしていいのってというようなことでなかなか進まない部分があるんですよね。そうしたときに、こういうところで、しっかり大丈夫なんだよってというような、講座を一回でも二回でも受けていけば、もっともっと学校の方に地域のみなさんが入れる場所があるんじゃないかなといつも思っているところです。私もこの講座になるべく来たいなと思っているんですが、平日ですので、仕事と重なってなかなか来れないという部分もありますので、そこらへんもどうなのかなと。平日だけでというのもちょっと残念かなと、これだけの施設がある中で。発信はですね、公民館も責任があるかなと、今ちょっと思ったのですが。やはりですね、中央公民館なんかから、こういう講座がありますよというお知らせがあるんですが、なかなか一般のみなさんにお知らせする機会がなくて、一般のみなさんもお知らせしたとしても、自分たちが行くものではないと、やはり先ほどもありましたが、役員さんか何かじゃないと行かれないという感覚がありますので。やはり、公民館でももう少し、この紹介をしていかななくてはいけないのかな、と今思いました。今後は、こういう場所があってこういうことをしているんで、ということをもうちょっと、公民館から発信したいなと反省した次第です。ありがとうございました。

【西議長】

たぶん、そういう形で住民の方にこの講座を受けていただくことで、その地区の公民館活動とか社会教育活動が、より活性化してくる。住民参加型の地域社会の活動が活発化してくるだろうと思います。あと、学校の中に入るとかいう形で話が出ているんですけど、社会の方で子どもたちを受け入れるとか、そういった面でご意見あればいただきたいんですけど。このセンターの活用といったことに関わって。いかがでしょうかね。あともう一つ、今出てきたところで、講座の日程。普段お仕事している方だと、なかなかそれが実現できないという現実が、役員をやっている、組めないのだというご意見も出ていたかと思うんですけど。またそれはおいおい考えていただくということになるかと思いません。

【斎藤企画幹兼課長補佐兼総務係長】

指導者の方に、一回知ってもらおうということが大事だと思います。地域の住民の方が平日に来るのは、遠いところではあります。逆に地域住民の方も時間としては限られていると思います。方向性としては、要請を受けて出かけて行くようなものがいかにやれるのかな、という気がしています。ある程度人数の方が集まれるのであればいいでしょうし、その前の段階であれば役員の人ですとか、一緒に興味のある方を引っ張ってきていただくという中でやる方が、県内も広いですけど、広域的にポイントでやればなということとは感

じます。

【西議長】

たぶん、役員さんで今やっという形で、何回か講習を受けていただいたという方が出てきているということは、その方が今度は地区の中でそのことを広めていってもらって、指導者を養成していただくといった形になれば、本来のこのセンターが持っている役割が発揮されてくることになるかと思います。

あといかがでしょうか。あと残り5分くらい。意見交換の時間となりました。

伴委員。お願いいたします。

【伴委員】

外部に出ていく出前講座に大賛成でございまして、そういうときに、ぜひ、センターと大学の連携みたいな形で、生涯学習の講座なんだけれども、西先生の大学のところのキャンパスをお借りしてやるとか、そういう形にすると、指導者のみなさんってなかなかあの、大学に入るという機会が少ないじゃないですか。実は上田市では、未来学科ということで、上田市内にある大学のキャンパスをお借りして、生涯学習の講座をすべての大学で持っているんですね。そうすると、地域のみなさんが、生涯学習を学びつつ、大学の体験もできたりして、とてもお喜びになられるので、ぜひそういった形での学社の連携ってということも考えていただけたら、わくわくするような講座になるんじゃないかなと感じました。

【西議長】

ありがとうございます。大学も開放しなければならないという時代でございますので、ありがとうございます。他の委員からいかがでしょうか。

では、中島委員。

【中島委員】

今先生が、おっしゃいましたように、私たち社会人が大学など学校へ入り学ぶということですけども、私たちが学んだもので地域が子どもたちを支える、抱える、育むという事例がありますか。

【西議長】

たぶんあの地域の指導者の方が、子どもたちに返していくという方向性ですかね。

【中島委員】

私たちが学校へ行って、子どもたちと関わるのではなくて、地域で、子どもたちに関わり育むみたいな。

【西議長】

それがたとえば、先ほど伴委員からお話があったように、上田城址でキャンプをするような事例に相当するとイメージすれば、そういう形で学校の中に指導者が入っていく、地域の方が入っていくパターンと、子どもたちが地域の中で、子どもたちを引き受けて、教育していきましようという方向性から、何かご意見いただければ。たとえば、夏休みに地域の公民館で何か企画をする。その指導者研修が、こういった形で自然と触れ合うみたいなものがあって、企画をして運営していくというような形であれば、センターがあって、地域の組織があって、そしてそこで、地域が子どもたちを今度教育していく。そうしたシステムかな、と。信州型コミュニティースクールは、どうしても学校の中に地域の方が入るといったスタイルが主になっているので、学校を開放するということは、子どもたちが外に出ていく、そういうところで、地域の人たちに関わっていただくということも今後、こういったセンターの指導者育成というところからするととても重要なことなのではないかと、私などは考えています。根拠となるのは、先ほど伴委員から、自己紹介のときにおっしゃってくださった地域としての教育委員会なんではないかな。また組織としては、教育委員会が子どもたちを引き受けて、キャンプをしていくというような形の教育活動をイメージしておりました。

【伴委員】

通学合宿とかも。

【西議長】

そうですね。通学合宿もそういう形になろうかと思います。

はい。中島委員。

【中島委員】

どうも私、かみ合わないような問題意識があるようですが、地域の子どもたち、たとえば、子ども神輿をやるとか、敬老会で歌を歌う、爺ちゃん婆ちゃんの折詰の蓋に絵を描くとか、お手紙を出すとか、そういうものは全部地域の中でやっているんですよね。そして最後はおんべ、どんど焼きとか三九郎ですが、こういうものはずっと地域の中でやっていることであって、それは社会教育であるわけですよ。だけど、そのことが、どういうふうにはセンターの講習と結びついているのか。PTAは社会教育団体ですから、PTAの講座の中ではどうなのか。学校から離れたお父さんお母さんや青年団など、私は、74歳ですが、今だに壮年団の法被着て神輿を担ぐわけですけども、地域の中で地域づくり人づくりにかかわっているわけですよね。そういうふうなものが、今の講習会にどうつながっていくのか。ただ、PTAの指導者研修というようなところで、そういった学校を離れた形の中の、

地域のPTAの活動であったりとか、PTA支会とか地区Pとか呼んでますけど、そこの方々を公民館分館の体育委員や副委員長だとかにするとか、中学校の支会長さんは青少年育成会長として地域分館のいわゆる役員になるとか、そういった形の中で一体化してやっているというのが飯田下伊那は多いと思うんですけども、そういうふうなことが指導者研修とどう結びついているのか。もしそういう形の講座があれば行ける人も出るのかなと思ったりするわけです。

【西議長】

そのような点について事務局から補足ありますでしょうか。具体的にどう結びつくか、というところだけでなくでもいいかと思えます。

【荒深長野県生涯学習推進センター所長】

長野県の小学生、中学生がね、地域の活動への参加率というのは、全国でもトップクラスなんです。特に小学生は、非常に多くの子どもたちが地域の行事に参加している。中学生になると、だいたい部活等の関係もあって少なくなっちゃうんですね。だから、学校に来ていただくということもあるんですけども、子どもたちは逆に地域に出て、地域のみなさんから教えていただいたり誘っていただくことによって、様々な関係ができていますね、そういうところの指導者として、我々が、何ができるか、行政として何ができるかということも、やはり、考えていく必要があるかなと今ちょっと思いました。

それから、発信ということについては、私どもも、様々な工夫はしているんですけども、なかなか広がっていかないという現状があります。だから、教育委員会へ、たとえば発信するんですけど、教育委員会からつながらないということもありますし、なかなか難しい面があるんです。我々も本当になるべく多くの人たちに、こういう講座があるということを理解していただきたいですけど、なかなか難しくてうまくいかなくて歯がゆいことがございます。けど、一回参加していただいた方には、メール等でですね、情報提供するということがいくらでもできるものですから、メールアドレスを教えていただければ、そこに今度こういう講座がありますよ、というようなことがいくらでも発信できるんですけどね。だから、我々も工夫はしているんですけど、まだまだ工夫不足だなと感じました。

【中島委員】

社会教育委員は、県や市町村の社会教育行政についていろいろな意見、助言、提言をするものでありますが、一方では、行政のほうの社会教育政策はこういう願いと思いをもち、今こういうことをやっているんだよということを伝えるのも社会教育委員の仕事なんです。つまり、行政と地域市民との懸け橋の仕事をするのが、社会教育委員の仕事であるというふうに社教連の中では盛んに語りながら実践をするわけです。今日は荒深所長さ

んの話がございましたように、力は少ないですけども、なんとか県の生涯学習センターのこの事業について、わかるところで地域に伝えたり広げたり、ちょっと使える資料を、それこそ展示するなり社会教育委員に改めて回覧するとか、そんなふうな形で少しでも関わっていきたいと思います。ありがとうございました。

【西村委員】

ちょっとすみません、短時間ですが、いまいろいろ活動報告があったんですが、短時間ですが、私の地区の活動を紹介します。私の地区は小学生が約 1,000 人、その中で毎年活動しているんです、まちづくり委員会ということで、地域の委員長が先導をとりまして、少年クラブということで活動しております。運動クラブ、文化系クラブ含めて約 25 から 30 くらいですかね。その中でも、私一つ指導しているんですが、生徒数 600 人、1,000 人ちょっと欠けるんですが、運動系、文化系、年間を通じてね、活動をしていますので、指導者は 1 人、2 人ついているんですけど活発にやっております。そんな実例もありますので紹介させていただきました。

【西議長】

はい。ありがとうございます。たぶん資料の中に入っている「生涯学習」を見ていただくと、今年から 3 つに分けたということで、どのような講座が展開されているか、それをどういうふうに活用されているかというのも表紙の裏が「学びの達人」というような形で、それぞれの個別事例を出していただいています。こういうのも活用していただくことになろうかと思います。先ほど子どもの地域行事への参加率というお話もありましたが、これも毎年全国で行っている調査ですけども、小学校は全国平均約 30% です。長野県は 6 割を超えております。やはり、普通に地域に入っている子どもたちがいる、普段から関わっている子どもたちが長野県は全国の倍いるんだと、全国平均の倍いるんだということを意識した上で取り組んでいく。我々大人、地域がどういうふうに、そうした子どもたちと関わっていくのか、入るのか、受け入れるのか、それぞれのやり方でやっていく。その全体をオーソライズしていただく、統括していただくのが、このセンターとしての位置付けになり、そういうものを、今度返したり、様々な形で情報発信したりするのも、実は、センターとしての大切な役割になるのだらうと思っております。その意味で、広報活動が、さらに検討していただくべき内容なのかと。そして、それぞれの社会教育、地域で行っているいいものをぜひすくい上げて、発信していただければと、そこでこんなことやっている、うちでもやってみようかなってというような、社会教育の施設、公民館活動などが、お互いに連携しながら、活動を広げていっていただく。そんなつなぎ役になるのも、ネット化できるのもこのセンターの役割なのかなというふうに思いました。今までの意見交換を伺っていて、私そのような形で、ある程度のまとめをさせていただければというふうに思います。ぜひ今後ともセンターの役割としての位置づけ、しっかりと情報発信するとい

うことが大きな課題というように、今日のご意見でも出ていましたので、引き続きご検討
いただきたいと思います。

【西議長】

では残り時間が少なくなってまいりましたけれども、県の生涯学習施設の県立長野図書館
について、扱いたいと思います。事務局からの説明をお願いいたします。

【斎藤企画幹兼課長補佐兼総務係長】 資料により説明

【西議長】

はい。ありがとうございます。

県立図書館の研修について、ご質問があればお伺いしたいと思います。いかがでしょう
か。館長がなかなかアイディアマンだと私も伺っておりましたので楽しみでございます。

ご意見いかがでしょうか。図書館の裏を見るというのが私も参加してみたかったと思
います。水族館とか動物園とかの、バックヤード見学の図書館版だと思えばいいんです。本
を修理しているところを見せるとか。そのようなところが見られると。県立でないとな分
見られないものってあると思いますので、ぜひそういうところは情報発信だと思うので。
よろしいでしょうか。ありがとうございます。では、一応予定していた議事は以上でござ
います。

(3) その他

【西議長】

最後、3号議案として、その他に入ります。事務局からお願いいたします。

【斎藤企画幹兼課長補佐兼総務係長】 中田委員の長野県社会教育委員連絡協議会への代
表参加について

【斎藤企画幹兼課長補佐兼総務係長】 県立歴史館について

【西議長】

ありがとうございます。ただいま説明のありました県立歴史館について、何かご意見・
ご質問ありますでしょうか。ぜひご活用いただければと思います。

【西議長】

それではですね、今ちょうど私の時計で12時でございます。なんとか、2時間で会議を終えられそうでございます。事務局におかれましては、各委員からのご意見、ご提言を今後の施策にぜひ有効にいかしていただければと思います。また、各委員の皆様には、議事の進行につきまして大変ご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

以上をもちまして、本日の議事すべてを終了します。

6 閉会